

1. 開催日時

平成29年11月27日（月）14:00～15:10

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 特別会議室

3. 出席委員

・浅野幸弘 委員長 ・明田雅昭 委員 ・菅原晴樹 委員 ・枇杷高志 委員

4. 議事

- ・金融変数の検討について
- ・外国債券に関する検討事項について
- ・効率的フロンティアの検討について 等

5. 概要

金融変数や外国債券に関する検討事項など、次期政策アセットミクスを策定するために必要となる前提条件について検討を行った。

金融変数の検討については、今後の経済見通し等に基づき、各資産クラスの期待収益率や標準偏差、相関係数を導出した旨説明し、本日説明した金融変数を用いて検討を進めることについて了承された。

外国債券に関する検討事項および効率的フロンティアについて、事務局及びみずほ総研から説明を行った。

今回策定の金融変数に基づくと、外国債券はリスクリターン効率が低いため、定量面では投資対象とならないが、為替ヘッジ付きの外国債券については、組み入れたとしても、資産全体の（定量的な）投資効率を大きく損なうものではないことが、ヘッジ外債組み入れのありなし2パターンでの効率的フロンティアを比較することによって確認できた。国内債券だけでなく外国債券に一部投資することは、各国の景気動向・金利サイクルの違いによって生じる分散投資の効果が定性面から認められる。以上から、次期政策アセットミクス策定においては、為替ヘッジ付きの外国債券を投資対象に加えたいとの提案を行い、了承された。

なお、今回の議事についての委員からの主な意見等は以下のとおり。

<主な意見等>

- 今後の見通しに関しては、与えられた数値や前提については、妥当である。このシナリオに沿って算出した数値等についても、納得のいくものではないか。
- 為替ヘッジ付き外国債券ならば、組み入れた場合の定量面でのマイナスの影響も限定的であること等を勘案すると、定性的な判断として保有することは妥当な考え方であろう。
- 外国債券に投資する意義については、定性的にリスク分散を図るという点を含め、加入者や関係者の方々に向けて、分かりやすく説明してほしい。
- 外国債券投資は、各国の景気循環や金利変動の違いに分散される効果がある点について、分かりやすく整理したらよいのではないか。
- 次期政策アセットミクスの策定にあたり検討してきた、従来の方法からの変更点やその狙い等について、工夫して説明することが必要であろう。

以上